

住民の皆さんができること、行政に望むことについて意見交換しました。

	住民ができること	× (かける)	行政にしてほしいこと
災害への備え 	・防災知識を身につける ・訓練をしっかりとる ・避難のため色々な想定を増やす ・補助制度などあらかじめ知識を身につけておく ・災害手帳を作っておく ・発災後の自身の身の振り方を考えておく ・地震・津波に関心を持つ ・地震保険・家財保険に入る		 ・事前復興まちづくり計画を住民へ周知する ・事前復興研究会(勉強会)を開催する ・耐震化の補助金を拡充する ・支援制度を事前に周知する
被災時の助け合い 	・平時のコミュニティの強化 ・地域住民同士のつながりを深める ・隣の人とは話のできる関係になっておく ・ワークショップで終わらず、勉強会や話し合いを続ける ・ワークショップの内容を地域へ広める		 ・福祉避難所の数を増やす ・避難所を増やす ・地域活動への支援を強化する
復興まちづくり 	・土地の相続・登記を進める ・空き家への対策・空き家の早期解体 ・地域のキーパーソンを次の世代へ引き継ぐ ・企業が事業計画を作っておく		・事前に復興計画案を立て、優先順位を決める ・復興パターンを明確に示す ・区画整理を平時から進める ・一時移転場所や仮設住宅用地を確保する ・空き家問題を解消する ・復興時に動いてくれる体制(土木業者等)を整える 
その他	・SNS等で発信し、地区から出て行った人ともつながりを維持する		・相続や引っ越しへの支援をする ・事前復興募金を実施する ・教育関係を強化する

自助・共助・公助

●お知らせ

ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災政策課 事前復興まちづくり担当
TEL : 088-823-9055 FAX : 088-823-9085
Mail : kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.2 R 8. 8. 4

中央地区 事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (下知地区) を 開催しました！ 地域の方 36名参加

意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページに表示しています。

6月30日(火)、下知コミュニティセンターアイジスで、中央地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ(下知地区)を開催しました。意見交換1では「中央地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

●ワークショップの進め方・内容

第1回	R 8. 2. 18開催	
ワーク1	下知地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること	
ワーク2	復興パターン2案について	
ワーク3	楽しくなるような未来のまちを想像する	
第2回	R 8. 6. 30開催	
意見交換1	復興ビジョンについて	
意見交換2	修正復興パターンについて	
ワーク4	速やかに復興するために必要なこと	
第3回	令和8年10月頃開催予定	
意見交換3	最終案について	
ワーク5	災害が起きる前からできること	



各地区での第1回のご意見から復興ビジョンを3案作成し、意見交換しました。

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1（第1回ワークショップで提示済み）「コミュニティ・多世代」を主軸とする案

『世代を超えてつながる 安心とにぎわいが持続するまち』

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

案2（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案

『いつもの便利がもしもの安心へ 利便と防災が融合する災害にも強いまち』

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強い」をキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

案3（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「資源・にぎわい」を主軸とする案

『歴史文化と安心を守り抜く 笑顔あふれるにぎわいのまち』

これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることに繋がります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

○各班で議論したものを、発表していただきました！

グループ1 3つの案の主軸としているものを組み合わせたものにしたい

- ・3案全て必要である
- ・「災害にも強い街」というのが全てをカバーできるのではないかな。

グループ2 「多様」「コミュニティ」「世代を超えて」を重視させたい

- ・コミュニティが大事。特に次の世代の人達に広く知ってもらう必要がある。
- ・重要な要素をミックスできたら良い。

グループ3 「利便性」「安心安全」「子育て」「区画が整理された街」を重視したい

- ・「安全」なまち。災害はもちろん防犯も考えたい。

グループ4 案1か案2を選択

- ・次世代に向けた案である1案が良い。戻ってきてくれるまちを目指したい。
- ・「安心」というフレーズが大事と思ってもらうことが必要。

グループ5 案4を作成

- ・「いつもの絆がもしもの安心へ。災害にも強い地域・コミュニティ」

グループ6 案1か案2を選択

- ・どれも重要であるため、一つにするのが難しい。
- ・2案は防災というワードが入っており、にぎわいの要素にも繋がるため良い。

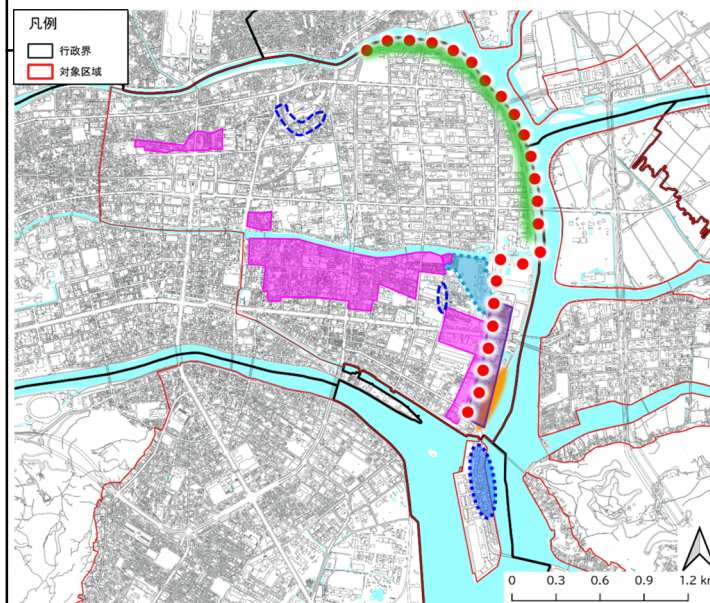


各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終的に中央地区のビジョンをお示します。

修正復興パターン2案について意見を共有しました。

【第1案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



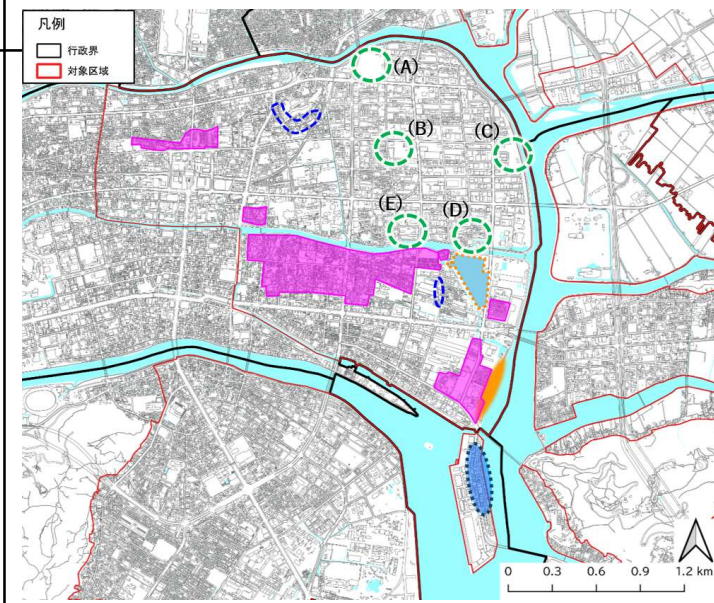
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 土地区画整理事業
道路基盤整備検討（一部範囲追加） | にぎわい形成
二線堤を活用した、かわまちづくりの検討 |
| 内陸移転 | 二線堤 |
| 丸池公園周辺用地の有効活用
空き家を活用した差込み移転 | 道路拡幅整備の検討 |
| 移転元地の有効活用
工業系移転候補地として活用 | にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討 |

【第1案】

- ・地区全体守れるから1案の方が良い
- ・二線堤で守った津波が他の場所に影響してきそうで心配
- ・二線堤の高さが壁に感じ、地域が分断されてしまうのではないかな
- ・平時の使い方はどうなるのか
- ・L2津波に合わせて二線堤を整備することが過大整備ではないかな
- ・二線堤ができるとどういう構造になるのか

【第2案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| (A) 防災拠点（弥右衛門公園） | 土地区画整理事業（嵩上げ） |
| (B) 防災拠点（北御座公園：立体都市公園） | 公営住宅等の整備検討
丸池公園周辺用地の有効活用 |
| (C) 防災拠点（南久保公園：立体都市公園） | 道路拡幅整備の検討 |
| (D) 防災拠点（札幌東公園：立体都市公園） | |
| (E) 防災拠点（札幌西公園：立体都市公園） | にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討 |
| 土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討（一部範囲追加） | |

【第2案】

- ・復興期間が短くて良い
- ・嵩上げをした場合、道路との接続はどうなるのか
- ・現地での復興になるため、手を取り合ってコミュニティ活動ができる
- ・利便性、コミュニティの面から「復興後の町づくり」という意味では2案がいいと思う
- ・防災拠点は立体都市公園（商業施設など）として利用でき、コミュニティのきっかけにもなる

【その他の意見】

- ・両案の良いところを残したい。
- ・復興期間をできるだけ短くしたい
- ・平時からコミュニティの形成までが必要
- ・高齢者が広い道路を安全に渡るために歩道橋を整備したい
- ・集合住宅を公園の近くに整備したい
- ・イベントスペースを整備したい
- ・弥右衛門地区に津波タワーがいるのではないかな
- ・日常から誰もが使用できる施設を整備したい
- ・国から支援を確実に受ける仕組みを確立させたい（被災後の復興支援費用）